

仙石山仏教学論集  
第7号（平成26年）

Sengokuyama Journal  
of Buddhist Studies  
Vol. VII, 2014

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範  
（苾芻習學略法附）』について

欽達木尼

# 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範 (苾芻習學略法附)』について

欽達木尼

## はじめに

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』（以下『儀範』と略す）はパクパの著作の一つで出家志願者の受戒作法を説くものであり、『磧砂藏』（横五）、『明北藏』（1182 夫）、『清藏』（1132 夫、至 1274 志）、『縮刷大藏經』（寒六）、『卍字藏經』（十九・六）、NJ. 1137、『大正新脩大藏經』（卷 45、No. 1904）等に収められている。『儀範』は序文と本文からなっており、本文では出家の作法や具足戒等に関して記述されている。

ここでは、このテキストと義浄譯『根本説一切有部百一羯磨』<sup>1</sup>、チベット訳 *bsTan 'gyur* に入蔵されている *Las brgya rtsa gcig pa*<sup>2</sup> を比較し、そしてモンゴル訳 *Danjuur* の *Jayun nigen üyile-tü*<sup>3</sup> を参考にしながら論じていきたい。

## 一、総論

総じて『儀範』はチベット語 *bsTan 'gyur* の *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）を基にして書かれた、と言っても過言ではない。しかし、全て同一と言う訳ではない。特にその内容の全貌と、項目の配置には異なる点が

1 『大正新脩大藏經』卷二四 No. 1453

2 中国藏学研究中心編 *bsTan 'gyur*（中国藏学出版社、2009 年）卷 88、pp. 1105-1482

北京木版 *bsTan 'gyur* 第 123 卷（No. 5620）、Zu folios 110a-298a

デルゲ版 *bsTan 'gyur*（No. 4118）、Wu folios 100b-259a

ナルタン版 *bsTan 'gyur*（No. 5620）、Zu folios 103a-287b

3 内モンゴル社会科学院所蔵 木版 *Danjuur*（No. 4679. 82-2）、folios 152b-379a

2 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

多い。そういった点では『儀範』を独立した著作と見なすべきである。『儀範』は三十九の項目から成り立っているが、*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）の第一章 *Rab tu byung ba'i gzhi'i skabs kyi cho ga dang las*<sup>4</sup>には三十六の項目があり、はじめに前書きとしてその三十六の項目名を略して並べている。北京版 *bsTan 'gyur* にはその略名の下にチベット語の数字で番号を記してある。『儀範』にはこのような前書きが見当たらない。『根本説一切有部百一羯磨』の『儀範』と相当する部分（第一巻）は内容的にもっとも短いものである。

## 二、構造と順序

『儀範』と *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）、更に『根本説一切有部百一羯磨』の三者の構造と順序を表にまとめると以下の通りである。『根本説一切有部百一羯磨』には項目別に名を付けていないので、両者と相当する内容があるかないかを「○」「×」で表す。

儀範	<i>Las brgya rtsa gcig pa</i>	根本説一切有部百一羯磨
×	前書き	前書き
×	1. sNgon gyi cho ga（以前の儀式）	×
1. 授鄔波索迦律儀	2. dGe bsnyen gyi sdom pa sbyin pa（優婆塞戒を授ける）	○
2. 鄔波索迦儀範	3. dGe bsnyen nyid du nye bar sgrub pa'i cho ga（優婆塞戒を与える儀式）	○
3. 出家白衆僧儀範	4. Rab tu 'byung bar 'dod pa zhu ba（出家願望者のための陳述）	○

<sup>4</sup> この第一章は *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）の『儀範』と相当する箇所であるが以下は一貫して *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）とする。

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼） 3

4. 請鄔波駄耶儀範	5. mKhan por gsol ba (鄔波駄耶に祈禱する)	○ <sup>5</sup>
5. 初作儀範	6. Dang por bya ba (最初の行事)	○
6. 出家儀範	7. Rab tu byung ba nye bar sgrub pa (出家させる行事)	○
7. 授沙彌律儀軌範	8. dGe tshul gyi sdom pa byin pa (沙彌戒を授ける)	×
8. 量影	9. Grib tshod gzhal bar bya zhing (影を量る)	×
9. 授沙彌戒儀範	10. dGe tshul nyid du nye bar sgrub pa'i cho ga (沙彌戒を授ける儀式)	○
10. 授具足戒儀範	11. Dang por bya ba (最初の行事)	○
11. 請鄔波駄耶儀範	12. mKhan por gsol ba (鄔波駄耶に祈禱する)	○
12. 三衣儀範	13. Chos gos gnyis (二[種類]の法衣)	○
13. 波怛羅儀範	14. lHung bzed (鉢)	○
14. 授坐具瀘水羅	×	×
15. 差屏教師儀範	15. gSang ste ston pa spro bar bya (隠れて聞く教師[屏教師]に好意を持たせる)	○
同上	16. gSang ste ston pa gsol ba'i cho ga dang (隠れて聞く教師[屏教師]の祈禱の儀式)	○

5 事実上『根本説一切有部百一羯磨』の三番目の作法として説かれている。

4 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

16. 屏處教授儀範	17. gSang ste ston pa (隠れて聞く[述べる])	○
17. 乞求近圓儀範	18. 'Ong ba zhu ba'o (戻るよう告げる[言う])	○
同上	19. bsNyen par rdzogs par gsol ba (近圓[具足戒]を希う)	○
18. 内中間障難羯磨儀範	20. Nang du bar chad dri ba gsol ba'i cho ga dang (内部に於いて障難を聞き祈禱する儀式)	○
19. 授近圓戒初作儀範	21. Nang du bar chad dri ba (内部に於いて障難を開く)	○
20. 授近圓根本儀範	22. bsNyen par rdzogs pa nye bar sgrub pa'i cho ga dang (近圓[具足戒]を与える儀式)	○
21. 量影	23. Grib tshod gzhal ba (影を量る)	○
22. 夜晝之分	24. Nyin mtshan gyi cha brjod pa (日夜の分別を語る)	○
23. 時節差別	25. Dust shod brjod pa (時間を計る[ことを語る])	○
24. 四依法	26. gNas rnams brjod pa (境地を語る)	○
25. 四墮落法	27. lTung bar 'gyur ba'i chos rnams (墮落法[を語る])	○
26. 沙門所應作法	28. dGe sbyong du byed pa'i chos rnams (修行者[沙門]の作法[を語る])	○

27. 標滿心希望勝願	29. mChog tu 'dod par bya ba yang dag pa nyid kyis rdzogs pa nyid brjod par bya (聖なる願 望を持ち確実に成し遂げる [ことを説く])	○
28. 明同得學處法	30. Tshul khrims kyis mnyam par gyur pa nyid sgrub pa la nges par sbyar bar bya (戒律 を以て平等性を作るために 相応しい行い)	○
29. 依世間喩説儀範	31. Tshul dang 'brel ba'i gzugs brnyan la nges par sbyar ba (戒律と相に 実に相応しい)	○
30. 住調伏法	32. Dul bar gnas pa nyid la nges par sbyar ba (おと なしく住するに相応しい)	○
31. 成辦所須法	33. dGos pa rjes su sgrub pa la nges par sbyar ba (需要に沿ってやり遂げる に相応しい)	○
32. 説儀範中未曾説防護法	34. Ma brjod pa yang dag par blangs pa yongs su shes pa'i sgrub par 'gyur ba nyid brjod pa (説かざるを正確に把握し 感じ捉える [ことを説く])	○
33. 説發至信偈	35. Gus pa la nges par sbyar ba (恭敬に相応し い)	○
34. 略説勸修方便法	36. bsGrub par by aba thabs brjod pa dang	○

6 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

	bcas pa la nges par sbyar ba (業を成し遂げる 方便 [を説く] に相応し い)	
35. 作苾芻儀範	×	×
36. 單白羯磨	×	×
37. 白二羯磨	×	×
38. 房舎儀範	×	×
39. 教求出家法	×	×

以上の如く三者を比較して見ると、大同小異であるが、全て合致する訳でもない。

*Las brgya rtsa gcig pa* (『百一羯磨』) の第一項目は、“sNgon gyi cho ga” (以前の儀式) とあるが『儀範』にはこの項目が見当たらない。『儀範』の三十五から三十九までの項目の内容と似たようなものが、*Las brgya rtsa gcig pa* (『百一羯磨』) には見当たらない。又、『儀範』の第十四項目の「授坐具濾水羅」は、*Las brgya rtsa gcig pa* (『百一羯磨』) にはない。また、この両者にあっても、『根本説一切有部百一羯磨』にない項目がいくつかあり、項目別にその中身を見ると相違点も少なくない。

### 三、問答

『儀範』には「問答」が三箇所、百二十六条目ある。

一は「I. 授鄔波索迦律儀」の師から出家志望者に対して問うべき「所有障法」。

二は「XVI. 屏處教授儀範」の屏教苾芻との屏處に於いての問答。

三は「XIX. 授近圓戒初作儀範」の羯磨師と僧伽中に於いての問答。

この中「授近圓戒初作儀範」と「屏處教授儀範」は、ほとんど<sup>6</sup>同じである。

<sup>6</sup> 文字の違いは多少あるが、それは伝写の過程で生じたものであろう。

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）<sup>7</sup>

## 1. 師から問うべき「所有障法」

この「所有障法」には四十二の「詰問」があり、これはチベット語 *bsTan 'gyur* の *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）と一致しているが、他の「羯磨」の資料ではこのようにまとまって書かれたところは見当たらない。『根本説一切有部百一羯磨』には、「師即應問所有障法（師即ち應に所有の障法を問ふべし）」とあるが、その「詰問」が記録されていない。表に纏めると以下の通りである。

儀範	Las brgya rtsa gcig pa	『根本説一切有部百一羯磨』
1. 汝非外道否。 （汝、外道に非ずや否や）	1. Khyod mu stegs can ma yin nam/（汝、外道ではないか。）	（17. 汝非外道不 <sup>7</sup> ） （汝、外道に非ずや不や）
2. 汝非年不滿十五否。 （汝、年十五滿たさざるに非ずや否や）	2. Lo bco lnga ma lon pa ma yin nam/（十五歲未滿ではないか。）	
3. 汝雖年滿十五非不能驚鳥否。（汝、年十五滿たすと雖も鳥を驚することを能はざるに非ずや否や。）	3. Lo bco lnga lon pa bya rog skrod mi nus pa ma yin nam/（十五歲になつて鳥を驚かすことが出来ない[者]ではないか。）	
4. 雖能驚鳥非年不滿七歲否。（能く鳥を驚すると雖も年七歲滿たさざるに非ずや否や）	4. Bya rog skrod nus pa lo bdun ma lon pa ma yin nam/（鳥を驚かすことが出来る七歲未滿[の者]ではないか。）	
5. 汝非奴等否。 （汝、奴等に非ずや否や）	5. Bran la sogs pa ma yin nam/（奴隸等ではないか。）	（6. 汝非奴等不） （汝、奴等に非ずや不や）
6. 汝非負債否。 （汝、負債なしや否や）	6. Bu lon chags pa ma yin nam/（負債者ではないか。）	

<sup>7</sup> この「問答」は『根本説一切有部百一羯磨』の屏教苾芻による屏處に至つての問答である。以下同じ。



8 『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

7. 汝非父母不聽許否。 （汝、父母聽許せざるに非ずや否や）	7. Pa mas ma gngang ba ma yin nam/（父母の許可がないのではないか。）	(5. [父母]聽汝出家不) (汝、[父母]聽許せざるに非ずや不や)
8. 汝雖父母不聽許非不遠鄉所否。（汝、父母聽許せざると雖も郷の所遠からざるに非ずや否や）	8. Pa mas ma gngang ba yul thag mi ring ba ma yin nam/（父母の許可がない遠方の者ではないか。）	
9. 汝非有疾病否。（汝、疾病有らざるや否や）	9. Nad pa ma yin nam/（病者ではないか。）	(30. 丈夫身中有如是病) (丈夫身中に是の如く病あり)
10. 汝非汚苾芻尼否。 （汝、苾芻尼を汚さずや否や）	10. dGe slong ma sun pyung ba ma yin nam/（比丘尼を強姦した者ではないか。）	(11. 汝非汚苾芻尼不) (汝、苾芻尼を汚さずや不や)
11. 汝非賊住否。 （汝、賊住に非ずや否や）	11. rKu thabs su gnas pa ma yin nam/（ <sup>かく</sup> 賊れる方法で住する[者]ではないか。）	(19. 汝非賊住不) (汝、賊住に非ずや不や)
12. 汝非別住否。 （汝、別住に非ずや否や）	12. Tha dad du gnas pa ma yin nam/（別居する者ではないか。）	(20. 汝非別住不) (汝、別住に非ずや不や)
13. 汝非不共住否。 （汝、共に住せざるに非ずや否や）	13. gNas par mi bya ba ma yin nam/（[共に]住して修行しない者ではないか。）	(21. 汝非不共住不) (汝、共に住せざるに非ずや不や)
14. 汝非鬻割人否。 （汝、鬻割人に非ずや否や）	14. Za ma ma yin nam/（ <sup>ふなん</sup> 不男ではないか。）	
15. 汝非黃門否。 （汝、黃門に非ずや否や）	15. Ma ning ma yin nam/（中性[人]ではないか。）	(10. 汝非黃門不) (汝、黃門に非ずや不や)
16. 汝非化人否。 （汝、化人に非ずや否や）	16. sPrul pa ma yin nam/（化人ではないか。）	(22. 汝非化人不) (汝、化人に非ずや不や)
17. 汝非傍生否。 （汝、傍生に非ずや否や）	17. Dud 'gro ma yin nam/（畜生ではないか。）	
18. 汝非趣外道否（曾作外道先已出家還歸外道更復	18. Mu stegs can zhugs pa ma yin nam/（外道の辭あ	(18. 汝非趣外道不) (汝、外道に趣くこと非ずや不

重來) (汝、外道に趣くこと非ずや否や。曾ては外道と作り、先に已に出家して(また)外道に還歸し、更にまた重ねて來たり。)	る[者]ではないか。)	や)
19. 汝非殺母否。 (汝、母を殺せるには非ざるや否や)	19. Ma bsad pa ma yin nam/(母を殺した[者]ではないか。)	(13. 汝非殺母不。 (汝、母殺せるには非ざるや不や)
20. 汝非殺父否。 (汝、父を殺せるには非ざるや否や)	20. Pa bsad pa ma yin nam/(父を殺した[者]ではないか。)	(12. 汝非殺父不 (汝、父を殺せるには非ざるや不や)
21. 汝非殺阿羅漢否。 (汝、阿羅漢を殺せるには非ずや否や)	21. dGra bcom pa bsad pa ma yin nam/(阿羅漢を殺した[者]ではないか。)	(14. 汝非殺阿羅漢不) (汝、阿羅漢を殺せるには非ずや不や)
22. 汝非破和合僧否。 (汝、破和合僧に非ずや否や)	22. dGe'dun gyi dbyen byas pa ma yin nam/(僧侶の仲を壊した[者]ではないか。)	(15. 汝非破和合僧伽不) (汝、破和合僧に非ずや不や)
23. 汝非惡心出佛身血否。 (汝、惡心もて佛身より血を出せるには非ざるや否や)	23. De bzhin gshegs pa langan sems kyis khrag phyung ba ma yin nam/(惡心もって仏身から血を出した[者]ではないか。)	(16. 汝非惡心出佛身血不) (汝、惡心もて佛身より血を出せるには非ざるや不や)
24. 汝不於四他勝中隨有犯否。(汝、四他勝中に隨って犯有ることなしや否や)	24. Pham pr 'gyur ba'i ltung ba bzhi po dag las gang yang rung ba byung ba ma yin nam/(四墮法の中のどれか一つを犯した[者]ではないか。)	
25. 汝非因有所犯為不悔過故衆所驅擯否。(汝、犯すところ有るに因りて、過を悔まずとなすが故に衆に驅擯す所に非ずや否や)	25. rGyu las bzlog pa'i chad pa khas mi len pa gnas nas phyung ba ma yin nam/(悔過しない故に出てきた[追い出された]のではないか)	

10『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

26. 汝非癱手等否（支節不具）。（汝、癱手等に非ずや否や〔支節不具なり〕）	26. Lag rdum la sogs pa ma yin nam/（手が不自由な者ではないか。）	
27. 汝非黃髮等否。 （汝、黃髮等に非ずや否や）	27. sKra ser la sogs pa ma yin nam/（黄髮者ではないか。）	
28. 汝非獨指甲等否。 （汝、獨指甲等に非ずや否や）	28. Sen mo gcig pa la sogs pa ma yin nam/（指の数一本の有蹄類ではないか。）	
29. 汝非王所揀別等否。 （汝、王の揀別する所等に非ずや否や）	29. rGyal pos bkrabs pa la sogs pa ma yin nam/（王に選ばれた者ではないか。）	
30. 汝非王不聽許否。 （汝、王聽許せざるに非ずや否や）	30. rGyal pos ma gnang ba ma yin nam/（王の許可がないのではないか。）	
31. 汝雖王不聽許非不遠郷所否。（汝、王聽許せざると雖も郷の所遠からざるに非ずや否や）	31. rGyal pos ma gnang ba yul thag mi ring ba ma yin nam/（王の許可がない遠方の者ではないか。）	
32. 汝非強盜名稱否。 （汝、強盜の名稱に非ずや否や）	32. Chom rkun par grags pa ma yin nam/（泥棒と広く知られた〔者〕ではないか。）	
33. 汝非毒害人否。 （汝、毒害人に非ずや否や）	33. Phung khrol ba ma yin nam/（つらよごしではないか。）	
34. 汝非皮匠人否。 （汝、皮匠人に非ずや否や）	34. lHam mkhan ma yin nam/（嘘つきではないか。）	
35. 汝非屠膾人非（否）。 （汝、屠膾人に非ずや否や）	35. gDol pa ma yin nam/ （極悪非道の者ではないか。）	
36. 汝非鄙賤種族人否。	36. gYung po ma yin	

(汝、鄙賤の種族の人に非ずや否や)	nam/(賤しい家柄の者ではないか)	
37. 汝非非人趣否。 (汝、非人趣に非ずや否や)	37. Mi ma yin pa'i 'gro ba pa ma yin nam/(非人趣ではないか。)	
38. 汝非北俱盧洲人否。 (汝、北俱盧洲人に非ずや否や)	38. Byang gi sgra mi snyan pa ma yin nam/(北俱盧洲の人ではないか。)	
39. 汝非再三轉相人否。 (汝、再三轉相人に非ずや否や)	39. mTshan lan gsum du gyur pa ma yin nam/(相が三回変わった者ではないか。)	
40. 汝非似男子婦人否。 (汝、男子に似る婦人に非ずや否や)	40. sKyes pa 'dra ba'i bud med ma yin nam/(男子に似た婦人ではないか。)	
41. 汝非疏陋人否。 (汝、疎陋人に非ずや否や)	41. sDig sdig lta bu'i mtshan nyid can ma yin nam/(罪の特徴を持つ者ではないか。)	
42. 汝非別州異貌人否。 (汝、別州の異貌人に非ずや否や)	42. gLing gzhan nas skyes pa'i tshul byad mi 'dra ba ma yin nam/(別州の異貌の人ではないか。)	

この表から見ると、『儀範』と *Las brgya rtsa gcig pa* は完全に一致しているが、『根本説一切有部百一羯磨』にはこれらと合致する問答が記録されていない。しかし、『根本説一切有部百一羯磨』の屏教苾芻による屏處に至っての問答には、いくつか類似した箇所がある。上表から判かるように、「出家授近圓羯磨儀範」にあつて『根本説一切有部百一羯磨』にはない投問は以下の通りである。

2. 汝非年不滿十五否 (汝、年十五を満たさざるに非ざるや否や)。

12『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

3. 汝雖年滿十五非不能驚烏否（汝、年十五を満たすと雖も烏を驚かすこと能はざるに非ざるや否や）。
4. 雖能驚烏非年不滿七歲否（能く烏を驚かすと雖も年七歲を満たさざるに非ざるや否や）。
8. 汝雖父母不聽許非不遠鄉所否（汝、父母聽許せずと雖も郷の所<sup>ところ</sup>遠からざるに非ざるや否や）。
14. 汝非罽割人否（汝、罽割人に非ざるや否や）。
17. 汝非傍生否（汝、傍生に非ざるや否や）。
24. 汝不於四他勝中隨有犯否（汝、四他勝中に隨つて犯有ることなしや否や）。
25. 汝非因有所犯為不悔過故衆所驅擯否（汝、犯すところ有るに因りて、過を悔らざるが為の故に衆に驅擯<sup>くひん</sup>する所に非ざるや否や）。
26. 汝非癩手等否支節不具（汝、癩手等に非ざるや否や支節不具なり）。
27. 汝非黃髮等否（汝、黃髮等に非ざるや否や）。
28. 汝非獨指甲等否（汝、獨指甲等に非ざるや否や）。
29. 汝非王所揀別等否（汝、王の揀別<sup>かんべつ</sup>する所等に非ざるや否や）。
30. 汝非王不聽許否（汝、王聽許せざるに非ざるや否や）。
31. 汝雖王不聽許非不遠鄉所否（汝、王聽許せざると雖も郷の所<sup>ところ</sup>遠からざるに非ざるや否や）。
33. 汝非毒害人否（汝、毒害人に非ざるや否や）。
34. 汝非皮匠人否（汝、皮匠人に非ざるや否や）。
35. 汝非屠膾人非（汝、屠膾人に非ざるや否や）。
36. 汝非鄙賤種族人否（汝、鄙賤の種族の人に非ざるや否や）。
37. 汝非非人趣否（汝、非人趣に非ざるや否や）。
38. 汝非北俱盧洲人否（汝、北俱盧洲の人に非ざるや否や）。
39. 汝非再三轉相人否（汝、再三轉相の人に非ざるや否や）。
40. 汝非似男子婦人否（汝、男子に似る婦人に非ざるや否や）。
41. 汝非疏陋人否（汝、疎陋人に非ざるや否や）。
42. 汝非別州異貌人（汝、別州異貌の人に非ざるや否や）。

## 2. 屏處に於いての屏教苾芻との問答

この屏教苾芻による屏處に於いての問答と「XIX. 授近圓戒初作儀範」の僧伽中に於いての羯磨師との問答は全く同じである。

表に纏めると以下の通りである。

儀範	Las brgya rtsa gcig pa	『根本説一切有部百一羯磨』
1. <u>汝は丈夫否</u> 。答言是。 (汝は丈夫や否や。答へて言はく是と。)	1. Khyod skyes pa yin nam/Des skyes pa lags zhes brjod par bya'o/ (汝、男か。彼、男だと答える。)	1. <u>汝は丈夫不</u> 。答言是。 (汝は丈夫や不や。答へて言はく是と。)
2. <u>汝具男根否</u> 。答言具。 (汝、男根を具ふるや否や。)	2. sKyes pa'i dbang po dang ldan nam/Des ldan zhes brjod par bya'o/(男根を具有しているか。彼、具有していると答える。)	
3. <u>汝年滿二十未</u> 。答言滿。 (汝、年二十を滿すや未だしや。答へて言はく滿すと。)	3. Lo nyi shu lon nam/Des lon zhes brjod par bya'o/(二十歳になったか。彼、なつたと答える。)	2. <u>汝年滿二十未</u> 。答言滿。 (汝、年二十を滿すや未だしや。答へて言はく滿すと。)
4. <u>汝三衣鉢具否</u> 。答言具。 (汝、三衣鉢を具ふるや否や。答へて言はく具ふると。)	4. Khyod kyi chos gos gsum dang lung bzed tshang ngam/Des tshang zhes brjod par bya'o/(汝、三衣鉢具を具えたか。彼、具えたと答える。)	3. <u>汝三衣鉢具不</u> 。答言具 (汝、三衣鉢を具ふるや不や。答へて言はく具ふると。)
5. <u>汝父母在否</u> 。答言在 (汝、父母在すや否や。答へて言はく在すと。)	5. Khyod kyi pha ma gson nam/Gal te gson zhes zer na/(汝の父母在世か。彼、在世と答える[れば]。)	4. <u>汝父母在不</u> 。若言在者 (汝、父母在すや不や。若し在すと云うは。)
6. <u>在者聽汝出家否</u> 。答言聽。若言死者。更不須問。([在す]汝	6. Khyod pha mas gngang ngam zhes dri bar bya'o/Des gngang zhes	5. <u>聽汝出家不</u> 。答言聽。若言死者。更不須問。(汝の出家を聽すや不や。答え

14『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

<p>の出家を聽<sup>ゆる</sup>すや否や。答えて言はく聽<sup>ゆる</sup>すと。若し死ぬと言はくは更に問ふこと須<sup>ゆる</sup>みず。）</p>	<p>brjod par bya'o/Gal te shi zhen zer na//（汝の父母許可したのかと聞く。彼、許可したと答える。若し、死去したと言えば更に聞かない。）</p>	<p>て言はく聽<sup>ゆる</sup>すと。若し死ぬと言ふは更に問ふこと須<sup>ゆる</sup>みず。）</p>
<p>7. 汝非奴<sup>ゆる</sup>香。 （汝、奴に非ずや否や。）</p>	<p>7. Khyod bran ma yin nam/（汝、奴隷ではないか。）</p>	<p>6. 汝非奴<sup>ゆる</sup>不。 （汝、奴に非ずや不や。）</p>
<p>8. 汝非偷來人否。 （汝、偷來人に非ずや否や。）</p>	<p>8. brKus pa ma yin nam/（汝、泥棒ではないか。）</p>	
<p>9. 汝非為求利養來否。 （汝、求利の爲に養來に非ずや否や。）</p>	<p>9. rNyed btson ma yin nam/（汝、利養のためではないか。）</p>	
<p>10. 汝非有爭競人否。 （汝、爭競人有るに非ずや否や。）</p>	<p>10. rTsod pa can ma yin nam/（汝、論争者ではないか。）</p>	
<p>11. 汝非是他賣人否。 （汝、是れ他賣人に非ずや否や。）</p>	<p>11. bTsongs pa ma yin nam/（汝、売られた者ではないか。）</p>	
<p>12. 汝非王家揀別人否。 （汝、王家の揀別人に非ずや否や。）</p>	<p>12. rGyal pos bkrabs pa ma yin nam/（王に選ばれた者ではないか。）</p>	<p>7. 汝非王臣不。 （汝、王の臣に非ずや不や。）</p>
<p>13. 汝非王家恐懼人否。 （汝、王家の恐<sup>きょう</sup>懼<sup>く</sup>人に非ずや否や。）</p>	<p>13. rGyal po la bsdigs pa ma yin nam/（王に憎まれた者ではないか。）</p>	
<p>14. 汝非王家毒害人<sup>ゆる</sup>香。 （汝、王家の毒害人に非ずや否や。）</p>	<p>14. rGyal po la gnod pa'i las byed pa ma yin nam/（王に面汚しなことをした者ではないか。）</p>	<p>8. 汝非王家毒害人<sup>ゆる</sup>不。 （汝、王家の毒害人に非ずや不や。）</p>
<p>15. 汝非自與王家作害教他作害人否。（汝、自ら王家に害を作すと他に</p>	<p>15. Khyod rgyal po la gnod pa'i las byas nam byed du bcug pa ma yin</p>	

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）15

教へて害を作さしむる人に非ずや否や。）	nam/(汝、王に面汚しなことをした者、させた者ではないか。)	
16. 汝非強盜名稱否。 (汝強盜の名稱に非ずや否や。)	16. Chom rkun par grags pa ma yin nam/(泥棒と広く知られた[者]ではないか。)	
17. 汝非鑊割人否。 (汝、鑊割人に非ずや否や。)	17. Za ma ma yin nam/(不 <sup>チ</sup> 男 <sup>ヒ</sup> ではないか。)	
18. 汝非黃門否。 (汝黃門に非ずや否や。)	18. Ma ning ma yin nam/(中性[人]ではないか。)	10. 汝非黃門不。 (汝、黃門に非ずや不や。)
19. 汝非汚苾芻尼否。 (汝、苾芻尼を汚すに非ずや否や。)	19. dGe slong ma sun phyung ba ma yin nam/(比丘尼を強姦した者ではないか。)	11. 汝非汚苾芻尼不 (汝、苾芻尼を汚すに非ずや不や。)
20. 汝非賊住否。 (汝、賊住に非ずや否や。)	20. rKu thabs su gnas pa ma yin nam/(賊れる方法で住する[者]ではないか。)	21. 汝非賊住不。 (汝、賊住に非ずや不や。)
21. 汝非別住否。 (汝、別住に非ずや否や。)	21. Tha dad du gnas pa ma yin nam/(別居する者ではないか。)	20. 汝非別住不 (汝、別住に非ずや不や。)
22. 汝非不共住否。 (汝、共住せざるに非ずや否や。)	22. gNas par mi bya ba mayin nam/([共に]住して修行しない者ではないか。)	21. 汝非不共住不(汝、共住せざるに非ずや不や。)
23. 汝非外道否(現是外道)。(汝、外道に非ずや否や[現は是外道たり。])	23. Mu stegs can ma yin nam/(汝外道ではないか。)	17. 汝非外道不(現是外道) (汝、外道に非ずや不や[現は是外道たり。])
24. 汝非趣外道否(曾作外道先已出家還歸外道更復重來)。(汝、趣外道に非ずや否や[曾ては外道と作り、先は已に	24. Mu stegs can zhugs pa ma yin nam/(外道の癖ある[者]ではないか。)	18. 汝非趣外道不(先已出家還歸外道更復重來) (汝、趣外道に非ずや不や[曾ては外道と作り、先は已に出家してまた外道に還歸し更に



16『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

出家してまた外道に還歸し更に復重來す]。)		また復重來す]。)
25. 汝非殺父否。 (汝、父を殺せるに非ずや否や。)	25. Pha bsad pa ma yin nam/(父を殺した[者]ではないか。)	12. 汝非殺父不 (汝、父を殺せるに非ずや不や。)
26. 汝非殺母否。 (汝、母を殺せるに非ず否や。)	26. Ma bsad pa ma yin nam (母を殺した[者]ではないか。)	13. 汝非殺母不 (汝、母を殺せるに非ず不や。)
27. 汝非殺阿羅漢否。 (汝、阿羅漢を殺せるに非ずや否や。)	27. dGra bcom pa bsad pa ma yin nam/(阿羅漢を殺した[者]ではないか。)	14. 汝非殺阿羅漢不 (汝、阿羅漢を殺せるに非ずや不や。)
28. 汝非破和合僧伽否。 (汝、破和合僧伽に非ずや否や。)	28. dGe 'dun gyi dbyen byas pa ma yin nam/(僧侶の仲を壊した[者]ではないか。)	15. 汝非破和合僧伽不 (汝、破和合僧伽に非ずや不や。)
29. 汝非惡心出佛身血否。 (汝、惡心もて佛身より血を出せるには非ざるや否や。)	29. De bzhin gshegs pa langan sems kyis khrag phyung ba ma yin nam/(惡心をもつて佛身から血を出した[者]ではないか。)	16. 汝非惡心出佛身血不 (汝、惡心もて佛身より血を出せるには非ざるや不や。)
30. 汝非化人否 (汝、化人に非ずや否や。)	30. sPrul pa ma yin nam/(化人ではないか。)	22. (先犯重人)汝非化人不 (汝、化人に非ずや不や。)
31. 汝非傍生否。應如是問。皆答言非。(汝、傍生に非ずや否や。應に是の如く問ふべし。皆答へて言はく非ずと。)	31. Dud 'gro ma yin nam zhes dri bar bya'o/Des ma lags zhes brjod par bya'o/(畜生ではないか。彼、[畜生]ではないと言う)	
32. 汝非負他人或少或多些少債否。若言有者。應可問言。(汝、他人に或は少或は多些か少債を負ふこと非ずや否や。若し有りと言ふは應に問	32. Khyod la la la'i bu lon mang yang rung nyung yang rung cung zad chags pa med dam/Galte bu lon chags so zhes zer na/(他人に多かれ少	23. 汝非負債不。 若言有者。應可問言 (汝、負債に非ずや不や。若し有りと言ふは應に問ひて言ふ可し。)

<p>ひて言ふ可し。)</p>	<p>なかれ負債があるか。若し負債あると言えは)</p>	
<p>33. 汝能授近圓已還彼債香。言能者善。若言不能者。汝可問彼。許者方來。 (汝は能く近圓を授け已りて彼の債を還すや否や。能ふと言はば善たり。若し能はずと言はば、汝彼に問ふべし。許すならば方<sup>ま</sup>に來たり。)</p>	<p>33. Khyod bsnyen par rdzogs nas 'jal nus sam zhes dri bar bya'o/Gal te mi nus zhes zer na/'O na song shig ces brjod par bya'o/Gal te bsnyen par rdzogs nas 'jal nus zhes zer na/(汝、近圓[具足戒]を受けて[負債を]返せるかと聞く。若し、できないと言えは、そうなら帰れと云う。若し、近圓[具足戒]を受けて[負債を]返すことができると言えは)</p>	<p>24. 汝能受近圓已還彼債不。言能者善。若言不能者。汝可問彼。許者方來。 (汝は能く近圓を授け已りて彼の債を還すや不や。能ふと言はば善たり。若し能はずと言はば、汝彼に問ふべし。許すならば方<sup>ま</sup>に來たり。)</p>
<p>34. 汝非先出家香。若言我曾出家者。應問。 (汝、先出家せしに非ずや否や。若し我曾て出家せりと言はば應に問ふべしと。)</p>	<p>34. Khyod sngon rab tu byung ba ma yin nam zhes dri bar bya'o/Gal te sngon rab tu byung zhes zer na/(汝、曾て出家したかと聞く。若し、出家したと言えは)</p>	<p>25. 汝非先出家不。 若言不者善。如言我曾出家者。(汝、先出家せしに非ずや不や。若し不と言ふは善たり。如し我曾て出家せりと言はば。)</p>
<p>35. 汝不於四他勝中隨有犯香。(汝、四他勝中に隨つて犯有ることなしや否や。)</p>	<p>35. Khyod pham par 'gyur ba bzhi las ltung ba gang yang rung ba zhig byung ba ma yin nam/(汝に四墮法の中のどれか一つを犯したことはないのか。)</p>	<p>26. 汝不於四他勝中隨有犯不(汝、四他勝中に隨つて犯有ることなしや不や)</p>
<p>36. 汝歸俗時善捨學處香。答言犯重。隨汝意去。若無犯者。(汝、俗に歸る時に學處を善く捨つる</p>	<p>36. Khyod 'babs pa na bslab pa legs par phul lam zhes dri bar bya'o/Gal te ltung ba byung</p>	<p>27. 汝歸俗時善捨學處不。答言犯重。隨汝意去。(若言無犯者善。問言。)(汝、俗に歸る時に學處を善</p>

18『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

<p>や否や。答へて言はく重を犯すと。汝の意に随つて去れ。若し犯なしなれば、)</p>	<p>ngo zhes zer na/ 'O na song shig ces brjod par bya'o/Gal te ma byung ngo zhes zer na/(汝、捨戒をちゃんと申したてのかと聞く。若し、犯してしまったと言え、そうなら帰れと言う。若し、犯してないと言え)</p>	<p>く捨つるや不や。答へて言はく重を犯すと。汝の意に随つて去れ。若し犯なしなれば、問ひて言はく、)</p>
<p>37. 汝現是出家人否。 (汝、現に是出家人なりや否や。)</p>	<p>37. Ji ltar khyod da ltar rab tu byung ba yin nam zhes dri bar bya'o/Gal te bdag rab tu byung ba yin zhes zer na/(汝は現在出家者ではないかと聞く。若し、出家者であると言え)</p>	
<p>38. (若言是者)汝行梵行否。答言行。問言。(若し是と言はば、汝梵行を行ふや否や。答へて言はく行ふと。問ひて言ふ。)</p>	<p>38. Khyod kyis tshangs par spyod pa legs par spyad dam zhes dri bar bya'o/Des legs par spyad ces brjod par bya'o/(汝、梵行を行ったのかと聞く。彼、行ったと言う。)</p>	
<p>39. 汝名字何。答云。我名某甲。(汝名字は何と。答へて云はく。我名は某甲たりと。)</p>	<p>39. Khyod kyi ming ci/(汝の名前は何。)</p>	<p>28. 汝名字何。我名某甲 (汝名字は何と。我名は某甲たりと。)</p>
<p>40. 問汝鄔波馱耶名字何。答云我因事至説鄔波馱耶名。鄔波馱耶名某甲。(汝の鄔波馱耶の名字は何と問ふ。答へて云はく、我事に因りて鄔</p>	<p>40. Khyod kyi mkhan po'i ming ci/Des bdag gi ming 'di zhes bgyi/Don gyi slad du mtshan nas smos te bdag gi mkhan po'i ming 'di zhes bgyi</p>	<p>29. 汝鄔波馱耶字何。答云。我因事至説鄔波馱耶名。鄔波馱耶名某甲。(汝の鄔波馱耶の字は何と問ふ)。答へて云はく、我事に因りて鄔波馱耶の名を説くに至</p>

<p>波駄耶の名を説くに至り。 鄔波駄耶の名は某甲なり と。)</p>	<p>zhes brjod par bya'o/ (汝の導師の名前は何。彼、 我はこんな名前[の人]、 用事の為に導師の名前を 云う。我が導師の名前は だれだれであると言う。)</p>	<p>り。鄔波駄耶の名は某甲な りと。)</p>
<p>41. <u>人身中有如是病。</u> (人身中に是の如きの病 有り)</p>	<p>41. Mi rnams kyi lus la lus kyi nad rnam pa 'di lta bu 'di dag 'byung ba 'di lta ste/(人体の病の種類 はこれらである。)</p>	<p>30. <u>丈夫身中有如是病</u> (丈夫身中に是の如きの病有 り)</p>

\*上記の表では異なる文字とどちらかでない文字を「■」の網かけで、全く同じく文章を下線「\_」で、似たような文章を下線「..」で示した。

上表から見ると、「問答」については『儀範』が *Las brgya rtsa gcig pa* と一致するが、『根本説一切有部百一羯磨』とは順序が異なる上、「問答」の数も異なる。『儀範』には四十一の「問答」、『根本説一切有部百一羯磨』には三十の「問答」がある。『儀範』にあつて『根本説一切有部百一羯磨』にない「問答」は以下の通りである。

2. 汝具男根否（汝、男根を具ふるや否や）。
8. 汝非偷來人否（汝、偷來人に非ざるや否や。汝王家の毒害人に非ざるや否や）。
9. 汝非為求利養來否（汝、求利養來爲るに非ざるや否や）。
10. 汝非有争競人否（汝、争競人有るに非ざるや否や）。
11. 汝非是他賣人否（汝、是れ他賣人に非ざるや否や）。
13. 汝非王家恐懼人否（汝、王家の恐懼人に非ざるや否や）。
15. 汝非自與王家作害教他作害人否（汝、自ら王家に害を作すと他に教へて害を作さしむる人に非ざるや否や）。
16. 汝非強盜名稱否（汝、強盜の名稱に非ざるや否や）。
17. 汝非罽割人否（汝、罽割人に非ざるや否や）。
31. 汝非傍生否。應如是問皆答言非（汝、傍生に非ざるや否や。應に是の如く問ふべし。皆答へて言はく、非ざると）。

20『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範(苾芻習學略法附)』について(欽達木尼)

37. 汝現是出家人否(汝、現に是出家人なりや否や)。

38. 汝行梵行否。答言行(汝、梵行を行ふや否や。答へて言はく行ふと)。

また、文章が微妙に異なる箇所がいくつかある。それは

『儀範』の

5. 汝父母在否。答言在(汝、父母在すや否や。答へて言はく在すと)。

12. 汝非王家揀別人否(汝、王家の揀別人に非ざるや否や)。

24. 汝非趣外道否。曾作外道先已出家還歸外道更復重來(汝、趣外道に非ざるや否や。曾ては外道と作り、先は已に出家してまた外道に還歸し更に復重來す)。

32. 汝非負他人或少或多些少債否(汝、他人に或いは少或いは多些か、少債を負ふこと非ざるや否や)。

34. 汝非先出家否。若言我曾出家者。應問(汝、先出家せしに非ざるや否や。若し我曾て出家せりと言はば應に問ふべし)。

39. 汝名字何。答云。我名某甲(汝、名字は何ん。答へて云はく、我名は某甲たりと)。

40. 問汝鄔波駄耶名字何。答云。我因事至説鄔波駄耶名。鄔波駄耶名某甲(汝の鄔波駄耶の名字は何と問ふ。答へて云はく、我事に因りて鄔波駄耶の名を説くに至る。鄔波駄耶の名は某甲たりと)。

41. 人身中有如是病(人身中に是の如きの病有り)。

『根本説一切有部百一羯磨』の

4. 汝父母在不。若言在者(汝、父母在すや不や。若し在すと言はば)。

7. 汝非王臣不(汝王臣に非ざるや不や)。

18. 汝非趣外道不。先已出家還歸外道更復重來(汝、趣外道に非ざるや不や。先には已に出家してまた外道に還歸し更に復重來す)。

23. 汝非負債不(汝、債を負ふこと非ざるや不や)。

25. 汝非先出家不。若言不者善。如言我曾出家者(汝、先出家せしに非ざるや不や。若し不と言はば善し。如し我曾て出家せりと言はば)。

28. 汝名字何。我名某甲(汝名字は何。我名は某甲たり)。

29. 汝鄔波駄耶字何。答云。我因事至説鄔波駄耶名。鄔波駄耶名某甲

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）21

（汝の鄔波馱耶の字は何。答へて云く、我事に因りて鄔波馱耶の名を説くに至る。鄔波馱耶の名は某甲たりと）。

30. 丈夫身中有如是病（丈夫身中に是の如きの病有り）。

である。

他の相違点としては否定字が『儀範』では全て「否」、『根本説一切有部百一羯磨』では全て「不」となっていることが挙げられる。

次に「身中有如是病」の中に沢山の病名が挙げられている。その病名は以下の通りである。

儀範	Las brgya rtsa gcig pa	『根本説一切有部百一羯磨』
1) 癩病	1) mDze dang	1) 癩病
2) 癭病	2) 'Bras dang	2) 癭病
3) 蟻漏	3) Phol mig dang	7) 惡瘡
4) 疱瘡	4) 'Brum phran dang	4) 疱瘡
5) 白癩	5) Sha bkra dang	5) 皮白癩疾
6) 疥癬	6) Khyi rngo dang	3) 癬疥
7) 串皮	8) Glog pa dang	* 6) 頭上無髮
8) 脚瘡	9) rKang shu dang	21) 瘡脚
9) 乾瘦病	11) sKem pa dang	
10) 忘魂	12) brJed byed dang	32) 鬼病
11) 飢病	13) bKres ngab dang	
12) 寒腫	14) sKya rbab dang	10) 水腫
13) 脚氣	15) rKang bam dang	
14) 陰漏	16) mTshan bar rdol ba dang	8) 下漏
15) 時氣病	17) Rims dang	
16) 極時氣病	18) Rims drag po dang	
17) 或一日 二日 三日 四日	19) Rims nyin gcig pa dang/	27) 諸瘡病

22『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

	Nyin gnyis pa dang/ Nyin gsum pa dang/ Nyin bzhi pa dang/	
18) 風黃		28) 風黃
19) 痰癰		29) 痰癰
20) 總集病	20) 'Dus pa dang	30) 總集三病
21) 日減日發病	21) Rims nyin re ba dang	
22) 長時病	22) rTag pa'i rims dang	31) 常熱病
23) 暫時病	23) Rims ldang dub pa dang	
24) 癰疽黃腫病	24) Shu ba dang	23) 癰瘰
25) 噎	25) gSud pa dang	16) 噎
26) 噦病	26) sKyigs bu dang	17) 噦
27) 欬嗽	27) Lud pa dang	11) 欬嗽
28) 喘氣	28) dBugs mi bde ba dang	12) 喘氣
29) 瘤	29) lHog pa dang	
30) 手足刺痛	30) Yan lag tu zug pa dang	
31) 諸塊	31) sKran dang	9) 諸塊
32) 血病	32) Khrag nad dang	22) 吐血
33) 疽病	33) mKhris nad dang	
34) 痔漏	34) gZhang 'brum dang	19) 諸痔
35) 嘔逆	35) sKyang bro ba dang	18) 嘔逆
36) 淋瀝	36) Chus bsgags pa dang	20) 痲癩
37) 困病	37) Ngal ba dang	
38) 遍體熱病	38) Lus tsha ba dang	
39) 脇痛	39) rTsib logs tsha ba dang	25) 脇痛

40) 骨節煩痛	40) Rus pa la zug pa ste	26) 骨節煩疼
		13) 咽喉乾燥 15) 形無血色 24) 下痢壯熱 33) 聾 34) 盲 35) 瘡瘻 36) 短小癭臂 37) 支節不具

上表から見ると、『儀範』と *Las brgya rtsa gcig pa* には一致する点が多いが、異なる箇所も幾つかある。『儀範』には「風黄」「痰瘻」とあるが、これに相当する病名が *Las brgya rtsa gcig pa* にはない。また、*Las brgya rtsa gcig pa* には“gYa’ba” “sKem nad” とあるがこれに相当する病名が『儀範』にはない。

『儀範』には『根本説一切有部百一羯磨』と一致する箇所があるが、一致しない点も多い。先ずは順序が異なる。次に病名数が『儀範』に四十条あるに対して『根本説一切有部百一羯磨』には三十七条しかない。なお、病名も『根本説一切有部百一羯磨』ではあまり適切とは言い難い名づけ方に対して『儀範』では、極めて専門的な言葉（病名）が使われている。例えば、『儀範』には、脚の病として「脚瘡」とあるに対して、『根本説一切有部百一羯磨』には〔脚の〕病の症状である「瘡脚」を病名として扱っている。そして、『儀範』にあるが『根本説一切有部百一羯磨』にない病名は：

- |          |         |          |          |
|----------|---------|----------|----------|
| 9) 乾瘦病   | 11) 飢病  | 13) 脚氣   | 15) 時氣病  |
| 16) 極時氣病 | 23) 暫時病 | 29) 瘡    | 30) 手足刺痛 |
| 33) 疽病   | 37) 困病  | 38) 遍體熱病 |          |

等である。

『根本説一切有部百一羯磨』にあるが『儀範』にない病名は：

- |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|
| 13) 咽喉乾燥 | 15) 形無血色 | 24) 下痢壯熱 | 33) 聾    |
| 34) 盲    | 35) 瘡瘻   | 36) 短小癭臂 | 37) 支節不具 |



24『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範(苾芻習學略法附)』について(欽達木尼)

『儀範』と『根本説一切有部百一羯磨』が全く一致する病名は：

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 1) 癩   | 2) 癭病  | 4) 疱瘡  | 18) 風黄 |
| 19) 痰癘 | 25) 噎  | 26) 噦病 | 31) 諸塊 |
| 35) 嘔逆 | 36) 淋瀝 | 39) 脇痛 |        |

等である。

同じ病の呼名でも記録した文字が異なる(或は位置が異なる)病名：

- 6) 疥癬(3.癬疥<sup>8</sup>)    27) 欬嗽(11.欬嗽)    28) 喘氣(12.喘氣)

等である。

同類の病、或は症状が似ている病名：

- |                                  |               |              |
|----------------------------------|---------------|--------------|
| 3) 蟻漏(7.惡瘡 <sup>9</sup> )        | 5) 白癩(5.皮白癩瘼) | 8) 脚瘡(21.瘡脚) |
| 10) 忘魂(32.鬼病)                    | 12) 寒腫(10.水腫) | 14) 陰漏(8.下漏) |
| 17) [極時氣病] 或は一日 二日 三日 四日(27.諸瘡病) |               |              |
| 20) 總集病                          | 22) 長時病       | 24) 癰疽黄胖病    |
| (30.總集三病)                        | (31.常熱病)      | (23.癰瘰)      |
| 32) 血病(22.吐血)                    | 34) 痔漏(19.諸痔) |              |

等である。

### 3. 問答の意味

上述のように『儀範』には三箇所合わせて、百二十四の問答がある。しかし「授近圓戒初作儀範」と「屏處教授儀範」は完全に一致しており、「授鄒波索迦律儀」とも重なる箇所があるので、実際には六十四の問答であると言うべきである。では、『儀範』の全ての問答と『根本説一切有部百一羯磨』の問答の一致する点と異なる点を表に纏めてみよう。

---

8 括弧の中は『根本説一切有部百一羯磨』にある病名。

9 同上

表一

I. 授鄒波索迦律儀	XVI. 屏處教授儀範	『根本說一切有部百一羯磨』
1. 汝非外道否。	23. 汝非外道否	17. 汝非外道不
2. 汝非年不滿十五否。		
3. 汝雖年滿十五非不能驚鳥否。		
4. 雖能驚鳥非年不滿七歲否。		
5. 汝非奴等否。	7. 汝非奴否	6. 汝非奴等不
6. 汝非負債否。		
7. 汝非父母不聽許否。	6. (父母)聽汝出家否	5. (父母)聽汝出家不
8. 汝雖父母不聽許非不遠鄉所否。		
9. 汝非有疾病否。	41. 具壽應人身中有如是病	30. 丈夫身中有如是病。
10. 汝非汚苾芻尼否。	19. 汝非汚苾芻尼否。	11. 汝非汚苾芻尼不
11. 汝非賊住否。	20. 汝非賊住否	19. 汝非賊住不
12. 汝非別住否。	21. 汝非別住否	20. 汝非別住不
13. 汝非不共住否。	22. 汝非不共住否	21. 汝非不共住不
14. 汝非罽割人否。	17. 汝非罽割人否	
15. 汝非黃門否。	18. 汝非黃門否	10. 汝非黃門不
16. 汝非化人否。	30. 汝非化人否	22. 汝非化人不
17. 汝非傍生否。	31. 汝非傍生否	
18. 汝非趣外道否(曾作外道先已出家還歸外道更復重來)	24. 汝非趣外道否	18. 汝非趣外道不
19. 汝非殺母否。	26. 汝非殺母否。	13. 汝非殺母不。
20. 汝非殺父否。	25. 汝非殺父否	12. 汝非殺父不
21. 汝非殺阿羅漢否。	27. 汝非殺阿羅漢否	14. 汝非殺阿羅漢不
22. 汝非破和合僧否。	28. 汝非破和合僧伽否	15. 汝非破和合僧伽不

26『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

23. 汝非惡心出佛身血否。	29. 汝非惡心出佛身血否	16. 汝非惡心出佛身血不
24. 汝不於四他勝中隨有犯否。		
25. 汝非因有所犯為不悔過故衆所驅擯否。		
26. 汝非癱手等否（支節不具）。		
27. 汝非黃髮等否。		
28. 汝非獨指甲等否。		
29. 汝非王所揀別等否。		
30. 汝非王不聽許否。		
31. 汝雖王不聽許非不遠鄉所否。		
32. 汝非強盜名稱否。	16. 汝非強盜名稱否	
33. 汝非毒害人否。		
34. 汝非皮匠人否。		
35. 汝非屠膾人非。		
36. 汝非鄙賤種族人否。		
37. 汝非非人趣否。		
38. 汝非北俱盧洲人否。		
39. 汝非再三轉相人否。		
40. 汝非似男子婦人否。		
41. 汝非疏陋人否。		
42. 汝非別州異貌人否。		

表二

XVI. 屏處教授儀範	I. 授鄔波索迦律儀	『根本説一切有部百一羯磨』
1. 汝是丈夫否。答言是		1. 汝是丈夫不。答言是。
2. 汝具男根否。答言具。		
3. 汝年滿二十未。答言滿。		2. 汝年滿二十未。答言滿
4. 汝三衣鉢具否。答言具。		3. 汝三衣鉢具不。答言具
5. 汝父母在否。答言在		4. 汝父母在不。若言在者
6. 在者聽汝出家否。答言聽。若言死者。更不須問。	7. 汝非父母不聽許否	5. 聽汝出家不。答言聽。若言死者。更不須問
7. 汝非奴否。	5. 汝非奴等否	6. 汝非奴不
8. 汝非偷來人否。		
9. 汝非為求利養來否。		
10. 汝非有爭競人否。		
11. 汝非是他賣人否。		
12. 汝非王家揀別人否。		7. 汝非王臣不
13. 汝非王家恐懼人否。		
14. 汝非王家毒害人否。		8. 汝非王家毒害人不
15. 汝非自與王家作害教他作害人否。		
16. 汝非強盜名稱否。	32. 汝非強盜名稱否	
17. 汝非罽割人否。	14. 汝非罽割人否	
18. 汝非黃門否。	15. 汝非黃門否	10. 汝非黃門不
19. 汝非汚苾芻尼否。	10. 汝非汚苾芻尼否	11. 汝非汚苾芻尼不
20. 汝非賊住否。	11. 汝非賊住否	21. 汝非賊住不。
21. 汝非別住否。	12. 汝非別住否	20. 汝非別住不
22. 汝非不共住否。	13. 汝非不共住否	21. 汝非不共住不

28『根本說一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

23. 汝非外道否（現是外道）。	1. 汝非外道否	17. 汝非外道不（現是外道）
24. 汝非趣外道否（曾作外道先已出家還歸外道更復重來）	18. 汝非趣外道否	18. 汝非趣外道不（先已出家還歸外道更復重來）
25. 汝非殺父否。	20. 汝非殺父否	12. 汝非殺父不
26. 汝非殺母否。	19. 汝非殺母否	13. 汝非殺母不
27. 汝非殺阿羅漢否。	21. 汝非殺阿羅漢否	14. 汝非殺阿羅漢不
28. 汝非破和合僧伽否。	22. 汝非破和合僧否	15. 汝非破和合僧伽不
29. 汝非惡心出佛身血否。	23. 汝非惡心出佛身血否	16. 汝非惡心出佛身血不
30. 汝非化人否	16. 汝非化人否	22. （先犯重人）汝非化人不
31. 汝非傍生否。應如是問皆答言非。	17. 汝非傍生否	
32. 汝非負他人或少或多些少債否。若言有者。應可問言。		23. 汝非負債不 若言有者。應可問言
33. 汝能授近圓已還彼債否。言能者善。若言不能者。汝可問彼。許者方來。		24. 汝能受近圓已還彼債不。 言能者善。若言不能者。汝問彼。許者方來。
34. 汝非先出家否。若言我曾出家者。應問。		25. 汝非先出家不。若言不者善。如言我曾出家者。
35. 汝不於四他勝中隨有犯否。		26. 汝不於四他勝中隨有犯不
36. 汝歸俗時善捨學處否。答言犯重。隨汝意去。若無犯者。		27. 汝歸俗時善捨學處不。答言犯重。隨汝意去。（若言無犯者善。問言。）
37. 汝現是出家人否。		
38. （若言是者）汝行梵行否。答言行。問言。		
39. 汝名字何。答云。我		28. 汝名字何。我名某甲

名某甲。		
40. 問汝鄔波駄耶名字何。 答云我因事至説鄔波 駄耶名。鄔波駄耶名 某甲。		29. 汝鄔波駄耶字何。答云。 我因事至説鄔波駄耶名。 鄔波駄耶名某甲。
41. 人身中有如是病。	9. 汝非有疾病否	30. 丈夫身中有如是病

上表から判かるように、『儀範』の二箇所の問答八十三条の中、十九条が重なっているため、この二箇所に出ている問答は、実際には六十四条である。そして『根本説一切有部百一羯磨』にある三十問答全てが、『儀範』の六十四問答のどちらかに合致するので、『儀範』には『根本説一切有部百一羯磨』にない問答が三十四条あるということである。

「授鄔波索迦律儀」の問答は、出家を求めて来た者に対して鄔波索迦<sup>10</sup>律儀戒を授ける前に問うべき質問である。『根本説一切有部百一羯磨』には「凡て出家を欲求する者有るは、随意に一師の處へ詣づ。師即ち所有の障法を問ふべし。」とあるが、具体的な質問は記録されていない。『四分律』でも、比丘になるためには、十遮十三難と言って、計二十三の条しか挙げられていない<sup>11</sup>。然るに『儀範』のこの質問からすると、授鄔波索迦

<sup>10</sup> 鄔波索迦—優婆塞とも書く。サンスクリット語では Upāsaka、チベット語では dGe bsnen、モンゴル語で Obaši である。

<sup>11</sup> 「今問汝遮難。若不實答徒自浪受。律云。犯遮難人七佛一時爲受亦不得戒。汝第一不犯邊罪不。答言無者。語云。汝應不識此罪。謂曾受佛戒而犯淫盜殺妄。作此四者必不得受。今汝無耶。答言無者。又語云。汝若不識不解不得妄答。第二汝不白衣時汚淨戒比丘尼不。答言無。第三汝不白衣沙彌時盜聽他說戒羯磨詐作比丘不。答言無。第四汝非曾作外道來投受戒後還作外道今復重來不。答言無。第五汝非五種黃門依名示之不。答言無者。第六汝非殺父不。第七汝非殺母不。第八汝非殺阿羅漢不。第九汝非破僧不。第十汝非惡心出佛身血不。各各答言無者。第十一汝非天子阿脩羅子名爲非人變爲人形而來受戒不。答言無。第十二汝非諸龍畜等能變化者變爲人形而來受不。答言無。第十三汝今身中不佩男女二形不。答無者。應讚言。善男子已問難事十三既無。戒可得受。更問十遮。汝今字誰。答言某甲。和尚字誰。答云某甲。年滿二十不。答滿。衣鉢具足不。答具。父母聽汝不隨有言聽若無言無汝不負債不。答無。汝非他賤人佛不許度不是奴不。答無。汝非官人不。答無。汝是丈夫不。答是丈

30『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

律儀戒を受ける者にとってはかなり厳しい規定であるに違いない。「屏處教授儀範」と「授近圓戒初作儀範」の問答は近圓<sup>12</sup>を受ける前に問うべきである質問である。前者は屏處に於いての詰問で、後者は僧伽中に於いての質問であり、内容は全く同じである。ちなみに『根本説一切有部百一羯磨』では、後者を「上の如く應に知るべし」として質問を省略している。

#### 四、各儀範の詳細

『儀範』には授鄔波索迦律儀、鄔波索迦儀範、出家白衆僧儀範、請鄔波馱耶儀範、初作儀範、出家儀範、授沙彌律儀軌範、量影、授沙彌戒儀範、授具足戒儀範、請鄔波馱耶儀範、三衣儀範、波怛羅儀範、授坐具濾水羅、差屏教師儀範、屏處教授儀範、乞求近圓儀範、内中間障難羯磨儀範、授近圓戒初作儀範、授近圓根本儀範、量影、夜晝之分、時節差別、四依法、四墮落法、沙門所應作法、標滿心希望勝願、明同得學處法、依世間喩説、住調伏法、成辦所須法、説儀範中未曾説防護法、説發至信偈、略説勸修方便法、作苾芻儀範、單白羯磨、白二羯磨、房舍儀範、教求出家法という三十九の儀範が記されているが、その詳細は詳しく書かれた箇所もあれば、大胆に省略した箇所もある。以下はその詳細について検討する。

##### 1. 授鄔波索迦律儀

「授鄔波索迦律儀」では鄔波索迦律儀戒を受けるための作法を説明している。律儀とはサンスクリット語で Saṃvara（漢字音写：三婆邏、三跋羅、三婆羅）と言って戒律と同様であると考えられる。この条項の問答以外の内容は『根本説一切有部百一羯磨』とほぼ一致する。問答については前述

---

夫。有如是病。癩癰疽白癩乾瘡顛狂。汝今無此諸病不。答言無者。應復語云。汝無遮難。定得受也。」—『大正新脩大藏經』卷四〇 No. 1804 p. 28c

<sup>12</sup> 近圓—サンスクリット語 Upasampanna、音訳は鄔婆三鉢那、具足戒の異名である。丁福保『佛學大辭典』（上海佛学書局、1996年）には：近圓（術語）具足戒之異名。圓為涅槃之稱。具足戒為近涅槃之法也。寄歸傳三曰：「既受戒已、名鄔婆三鉢那。」自註曰：「鄔婆是近、三鉢那是圓、謂涅槃也。今受大戒、即是親近涅槃、舊云具足者、言其況意。」とある。p. 1357b

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）31  
した通りである。

## 2. 鄔波索迦儀範

「鄔波索迦儀範」では、鄔波索迦律儀戒を受けた者に対して、五學處を教えるべきことを説いている。ここでの五學處とは五戒を指し、すなわち仏教において在家の信者が守るべきとされる基本的な五つの戒のことである。『儀範』には *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）と同様「殺生偷盜邪淫妄語飲酒」の中、特に「殺生」を強調して説明している。

## 3. 出家白衆僧儀範

*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）には “Rab tu 'byung bar 'dod pa zhu ba”（出家を希求する者を白す）とある。この条項では出家希求者を僧衆に告げることを説明していて、『儀範』、*Las brgya rtsa gcig pa*、『根本説一切有部百一羯磨』の三者は大同小異である。但し、『根本説一切有部百一羯磨』では「此乃ち但是れを以って白事を言うて、これ羯磨單白にあらず」とここの作法は白一羯磨のことではないと説明している。

## 4. 請鄔波駄耶儀範

ここでは出家する者が鄔波駄耶を請いて、その鄔波駄耶の承諾を得るべきことに関して説いている。この条項は *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）とほぼ一致する。『儀範』には鄔波駄耶と親教師が混同して使われているが、『根本説一切有部百一羯磨』には鄔波駄耶を訳して親教師とすること等を詳しく説明している。ちなみに、この条項は『根本説一切有部百一羯磨』では三番目の作法として説かれている。

## 5. 初作儀範

ここでは上述の四つの作法を終えた者に対して、始めに何をすべきかを説明している。即ち以下の四つのことをするべきであることと、その仕方を説明している。一に剃髮、二に洗浴、三に鉢器、染衣を与えること、四に「無根、二根、根不全」であるかを観察することである。この条項は



32『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）と完全に一致するが、『根本説一切有部百一羯磨』とは少々異なる。即ち、『根本説一切有部百一羯磨』は鉢器を与えることに触れてない。

## 6. 出家儀範、授沙彌律儀軌範

『儀範』は「出家儀範」、「授沙彌律儀軌範」に分けて、「出家儀範」には、三歸依を授ける作法、「授沙彌律儀軌範」では、沙彌律儀を授ける作法を説明しており、*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）とは完全に一致するが、『根本説一切有部百一羯磨』は求寂<sup>13</sup>を授ける作法を説明しており、『儀範』のように細かく分類してはいない。

## 7. 量影

ここでは影を量ることについて説いているが、詳しい作法を略して「皆苾芻戒中に作すが如し」としている。*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）にも同一のことが説かれているが、『根本説一切有部百一羯磨』にはこのような内容は書かれていない。

## 8. 授沙彌戒儀範

ここでは沙彌律儀を受けた者に対して十學處を説いている。十學處とは十戒のことで、すなわち沙彌と沙彌尼が保たなければならない出家の十戒である。『儀範』では *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）と同様「殺生偷盜邪淫妄語飲酒」の中、特に「殺生」を強調して説いている。また、『根本説一切有部百一羯磨』では一貫して Śramaṇera を「沙彌」ではなく「求寂」と訳している。

## 9. 授具足戒儀範

ここではこの条項の第一行の「授具足戒儀範」をタイトルとして付けた

---

<sup>13</sup> 求寂：普通二十才未満で、具足戒を受けていない見習い出家修行者。一般的には沙彌と呼ぶ。

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）33  
が、「授具足戒儀範」は後の幾つかの条項にも関連する。*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）は“Dang por byi dang”（最初の作法）として、同内容を説いている。この条項には二十歳に成った者に向け具足戒を授ける為の最初の作法が詳しく説かれているが、『根本説一切有部百一羯磨』とは内容が異なる点がいくつかある上、文脈的にも大分異なっている。『根本説一切有部百一羯磨』には「瀘水羅臥敷具」を求めるとあるが、ここではこれに触れず、後の条項において説かれている。また、『根本説一切有部百一羯磨』に「五衆或は十衆」を集めるとあるのに対して、『儀範』では更に詳しく「若し中國たるは十衆等を集むべし。若し邊國たるは律師と共に五衆等を集むべし。」と説いている。

## 10. 請鄔波駄耶儀範

これは具足戒を受ける為に鄔波駄耶を請う作法である。第四条項と同じ表題が用いられ、実によく似ている作法だが、詳細は若干異なる。この条項には「煉瓦或いは坯<sup>14</sup>の上に草を敷いて、受戒者をその上に蹲踞させ…」等と書かれているが、*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）では「煉瓦の上に草を敷く」ことになっていて「坯」は出ていない。また、『根本説一切有部百一羯磨』にはこのような内容の文句は見当たらない。

## 11. 三衣儀範

ここでは三法衣<sup>15</sup>を加持する作法を説いている。既に出来上がった衣、所謂「割截縫刺衣<sup>かつざいほうし</sup>」を持っている場合と、未だ衣を作らずにいる場合の作

---

<sup>14</sup> 坯：本文には「坏」とあるが、Pi と読む。煉瓦の生地のようなもので、そのままでも壁や家造りに使う材料に成り得る。

<sup>15</sup> 三法衣とは仏弟子の持つべき三枚の袈裟のことである。即ち、I. Samghāṭī 僧伽梨（僧伽胝）、訳して重複衣、眾聚時衣等と言う。II. Uttarāsaṅga 鬱多羅僧（嚧怛羅僧伽）、訳して上衣又は覆左肩衣と言う。III. Antarvāsa 安怛羅婆娑（安陀會、安怛婆娑）訳して中著衣、內衣、裡衣等と言う。『儀範』には僧伽胝角（Samghāṭī）、嚧怛羅僧伽（Uttarāsaṅga）、安怛婆娑角（Antarvāsaka）と書かれている。又、『儀範』の安怛婆娑（Uttarāsaṅga）を「譯爲內衣（訳して內衣と為す）」というのは間違いであろう。

34『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

法を詳しく説明している。『儀範』は「三衣儀範」、*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）は“Chos gos gnyis dang”<sup>16</sup>（二法衣）としているが、内容はほぼ一致する。*Las brgya rtsa gcig pa*では三法衣を加持することは勿論、上述した二種類の場合の作法についても強調している。『根本説一切有部百一羯磨』は内容的に両者とあまり変わりがないが、省略して書かれている。

## 12. 波怛羅儀範

ここでは鉢を僧衆に呈して承諾を得る作法と、鉢を加持する作法を説明している。*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）では同作法が説かれていて内容も一致するが、『根本説一切有部百一羯磨』では内容が大きく省略され、作法の手順が不明確である。

## 13. 授坐具濾水羅

この条項は非常に簡略化されているが、『儀範』だけにある条項でもある。これによると「坐具、濾水羅」を与える際に、特になすべき儀式がないまま渡すのであろう。

## 14. 差屏教師儀範

ここでは屏教師を指定する作法と、その屏教師の爲に單白羯磨をなす作法を説いている。*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）にはこの「差屏教師儀範」を“gSang ste ston pa spro bar bya”（屏教師〔隠れて聞く教師〕に好意を持たせる）“gSang ste ston pa gsol ba'i cho ga dang”（屏教師〔隠れて聞く教師〕の祈禱の儀式）と二条項にして説かれているが、内容は一致している。『根本説一切有部百一羯磨』でも同作法を説いているが、文章の表現が異なる上、「僧伽<sup>とんが</sup>胝衣を披ると與に衆僧に三遍禮せしむ」等の作法が欠けている。

---

<sup>16</sup> *Las brgya rtsa gcig pa* の前書きにより。

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）35

#### 15. 屏處教授儀範

この条項の問答以外の内容は三者（『儀範』、*Las brgya rtsa gcig pa*、『根本説一切有部百一羯磨』）とも大同小異である。問答については前述した通りである。

#### 16. 乞求近圓儀範

ここでは具足戒を授けることを請う作法を二段落に分けて説いている。一は屏教師によって障法を訊いたことを僧衆に報告し、具足戒を受ける者と呼ぶ承諾を得ること、もう一つはその呼ばれて来た者（具足戒を受ける者）が僧衆に礼を尽くし、近圓（具足戒）を請うことである。故に *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）は二条項にして説いている。即ち “Ong ba zhu ba”（戻るよう告げる [言う]）と “bsNyen par rdzogs par gsol ba”（近圓 [具足戒] を希う）となっており、内容は『儀範』とほぼ一致する。『根本説一切有部百一羯磨』の内容も前者と一致するが、屏処については詳しい説明が加えられている。

#### 17. 内中間障難羯磨儀範

これは僧衆の中に於いて障難を問う為に単白羯磨をなす作法である。言わば、障難を問う前の準備段階の作法である。この条項は *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）とは完全に一致するが、『根本説一切有部百一羯磨』とは異なる箇所が幾つか見られる。例えば、『根本説一切有部百一羯磨』に「支雙足跟十指踞地。蹲踞合掌。」（軛を以って或は物を以って草褥を裹み、[其の上に] 雙足跟にして十指を踞地して支へ、蹲踞し合掌す）とあるが、『儀範』と *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）にはこのような文句が見当たらない。また、この両者（『儀範』と *Las brgya rtsa gcig pa*）に「僧伽の中に於いて」（dge'dun kyi nang du）とあるが、『根本説一切有部百一羯磨』ではこのような文句が見当たらない。

#### 18. 授近圓戒初作儀範

ここでは僧伽中に於いて「障難」を問く作法を説いている。問答の内容

36『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

は「屏處教授儀範」の問答と完全に一致する。即ち、屏教師が屏處に於いて問いかけた質問をここ（僧衆の前）で、羯磨師によってもう一度問われる訳である。*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）でも同じことが書かれているが、『根本説一切有部百一羯磨』では、「上の如く應に知るべし」と内容を省略している。問答の詳細については、上述した通りである。

## 19. 授近圓根本儀範

ここは近圓を授ける為、白四羯磨をなすことを説いている。白四羯磨とは一白と三羯磨とで出来ており、この条項の前半はその「一白」に当たる箇所、後半は「三羯磨」のことである。内容的には三者（『儀範』、*Las brgya rtsa gcig pa*、『根本説一切有部百一羯磨』）で大きな相違点は見られない。

## 20. 量影、夜晝之分、時節差別

「量影」では影を量る手順、「夜晝之分」では日夜の区分、「時節差別」には季節の区別を説いている。影を量る手順の説明文は三者（『儀範』、*Las brgya rtsa gcig pa*、『根本説一切有部百一羯磨』）であまり大きな違いはないが、『根本説一切有部百一羯磨』では若干筆墨を増やしている。「夜晝之分」については『儀範』と *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）ではほぼ一致するが、『根本説一切有部百一羯磨』では、「初更夜半乃至天明等」と日夜の区分の詳細が略されている。「時節差別」は、『儀範』と『根本説一切有部百一羯磨』では文章の前頭と後尾が異なるが、間の文章は言々句々一致している。しかし、*Las brgya rtsa gcig pa* では五時（季節）の期間の詳細が挙げられていない。これもまた、『儀範』が *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）と『根本説一切有部百一羯磨』を参考にして書かれたという証拠といえるであろう。

## 21. 四依法

ここでの四依法<sup>17</sup>とは修行の際に依るべき四種の行法である。即ち糞掃

<sup>17</sup> 四依とは律藏（「世尊應供等正覺説四依法。比丘盡形壽依糞掃衣住出家受具足

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範(苾芻習學略法附)』について(欽達木尼) 37  
衣を着、乞食をし、樹下に座り、陳棄薬を用いることである。三者(『儀  
範』、*Las brgya rtsa gcig pa*、『根本説一切有部百一羯磨』)とも同一の内容を説い  
ているが、衣食住と薬関係の貰い物については『儀範』と *Las brgya rtsa*  
*gcig pa* (『百一羯磨』) の方でより細かく分類されている。即ち、

### (1) 衣類

緇絹 (Dar ram) : 絹織物の一種。

大白氎 (Be'u phrug gam) : 氎は羊などの毛を縮絨した織物で、大白氎は幅  
が広い氎である。

毛白氎羅 (Be'u ras sam) : 白色の氎。

縵國絹 (Dar la'm) : 一種類の絹。

大毛白氎 (Mon dar ram/Be'u ras yug chen nam) : 幅が広い氎。

紅毛氎 (Be'u ras dmar po'm) : 紅色の氎。

兜羅綿 (Ras yug chen nam) : 兜羅はサンスクリット語 *tūla* の音訳で綿花の  
意である。チベット語は「幅が広い布」となっている。

紅羅 (La dmar ram) : 紅色の羅衣のことであろう。羅衣は薄物で仕立てた  
衣服である。

細迦尸氎 (Yul ka shii ras phran nam) : 迦尸国 (Kāśī) の細氎である。

中平色 (Kha dog ran pa'm) : 中平色の衣。

卑下色 (Kha dog ngan pa'm) : 卑下色の衣。

毛子 (Bal gos sam) : 羊毛の衣。

舍那衣 (Sha nai ras sam) : Śāṇa 草の名、その皮で衣を作る。

胡麻衣 (Zar ma'i ras sam) : 麻の衣。

---

戒。…比丘盡形壽依乞食住出家受具足戒。…比丘盡形壽依樹下住出家受具足戒。…  
比丘盡形壽依殘棄藥住出家受具足戒。」—『彌沙塞部和醯五分律』・『大正新脩大藏  
經』 No. 1421 Vol. 22. p. 0120b、「如來至眞等正覺説四依法。比丘。依此得出家受具  
足戒。成比丘法。比丘。依糞掃衣。依此得出家受具足戒。成比丘法。…比丘依乞食。  
比丘依是得出家受具足。得成比丘法。…依樹下坐。比丘。依此得出家受具足。成比  
丘法。…依 腐爛藥。比丘依此得出家受具足。成比丘法。」—『四分律』・『大正新  
脩大藏經』 No. 1428 Vol. 22. pp. 0815c-0816a) によれば、修行の際に正しく依るべ  
き四つの行法である。即ち、I. 糞掃衣を着、II. 乞食をし、III. 樹下に座り、IV. 陳  
棄薬(腐爛)薬を用いることである。

38『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

劫貝衣（Ras gos sam）：木綿<sup>18</sup>の衣。

靚拘羅衣（Du gu la'i ras sam）：Du gu la は地名であろう。

嬌曇波國衣（Ko tam pa'i ras sam）：嬌曇波國の衣。

日下國衣（Nyi 'og gi gos sam）：日沈む処の国の衣。

ちなみに、『根本説一切有部百一羯磨』は「絁絹 縵条項 小帔大帔輕紗紵布」を挙げている。

## (2) 食事

米沙（'bras chan nam）：炊き米。

水飯（sKyo ma'm）：小麦粉を練って糊状にしたもの。

粥飲等（Thug pa'm）：お粥。

五日（lNga ston nam）、八日（brGyad ston nam）、十四日（bCu bshi ston nam）

十五日作節會食（Nya ston nam）：節日に食べる物。

僧次請食（rTag res 'khor ram）：相手を指名せずに誘う請食である。人数が限定されたときは、席順によって該当人数の僧が決まる。

別請食（mGron du bos pa'm）：在家信者が、僧侶を指名して食事に招くこと。

偶逢請食（Phral la bos pa'm）：偶々逢った時の請食。

故請食（sPags pa'm）：チベット語はツアンパ団子（麦こがしを茶汁で練った食べ物）となっている。

\*『根本説一切有部百一羯磨』に挙げているのは「飯粥飲、八日 十四日 十五日食、僧次請食 別請食 僧常食 常別施食」であり、その中の「僧常食、常別施食」が件の両テキストにはない。

## (3) 住坊

房（khang pa'm）：普通の家屋。

店（sNga khang ngam）：倉庫、公邸のことであろう。

樓閣（Khang pa brtsegs pa'm）：重層の建築物。

涼房（bSil khang ngam）：涼しい家、簡易な家屋。

寨籬（Sab mos bskor ba'm）：籬で囲んだ大きな庭。

---

<sup>18</sup>「劫貝即木綿」－『四分律行事鈔資持記』・『大正新脩大藏經』卷四〇 No. 1805 p. 297b23

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）39

敵樓（Ba gam mam）：敵を見張る為に城壁の上に建てられた建築物。

諸好宅舍（Khang bzangs sam）：好い家屋。

門上樓屋（sGo khang ngam）：門房。

房上帳幕（sGo khang gi steng gi bsil khang ngam）：家屋の上（チベット語は門房の上）の帳幕。

露地帳幕（Khang steng gi yol khang ngam）：露地に立てた帳幕。

板屋（sPang leb khang ngam）：板で作られた家。

坎穴（Sa phug gam）：地穴。

石窟（Brag phug gam）：石窟。

山巖（Ri phug gam）：山巖（山の岩）にできた洞窟。

茅菴（rtswa'i spyil bu'm）：小さな草屋。

稍屋（Lo ma'i spyil bu'm）：木の葉で作った小屋。

有院牆（'Chag sar byas pa'm）：囲む塀のある [家]。

無院牆（'Chag sar ma byas pa'm）：囲む塀のない [家]。

有虚厦（Bya skyibs su byas pa'm）：軒のある [家]。

無虚厦（Bya skyibs su ma byas pa'm）：軒のない [家]。

\*『根本説一切有部百一羯磨』は「房舍 樓閣 坎 窟 草苫 板覆」だけを挙げている。

#### (4) 薬類

Zhun mar ram: バター。『儀範』にはこの条文がない。

酥油（Bru mar ram）：牛などの乳から製した、バターに似た油。

蜜乳（sBrang rtsi'm）：蜂蜜。

糖沫（Bu ram gyi dbu ba'm）：泡のようにやわらかく溶けやすい蔗糖。

宜時薬（Dus su rung ba'm）：時候に相応しい薬。

宜更薬（Thun tshod du rung ba'm）：分量適合の薬。

七日（Zhad bdun pa'm）：七日間の薬。その薬は七日間しか持つことの出来ないものである。

至愈（Ji srid 'tsho'i bar du bcang ba'm）：[病気が] 治るまで所持できる薬。

『根本説一切有部百一羯磨』には「盡壽」と書いてあり、チベット語も「盡壽 [薬]」の意味である。



40『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

根藥（rTsa ba'i sman nam）：草根藥。律藏によると香附子、菖蒲、黃薑、生薑。白附子等<sup>19</sup>

である。

莖藥（sDong bu'i sman nam）：莖藥。律藏によると梅檀香、葛、栢木、天木香、藤、小栢等<sup>20</sup>である。

葉藥（Lo ma'i sman nam）：葉藥。律藏によると娑奢迦（Vaśikā）の葉、緋婆（Nimba）、高奢得枳（Kośataga?）の三葉<sup>21</sup>のことである。

華藥（Me tog gi sman nam）：花藥。律藏によると娑舍迦花、緋婆花、陀得雞花、龍花（龍華樹）、蓮花<sup>22</sup>等である。

果藥（Bras bu'i sman nam）：果藥。律藏によると毗黎勒果、菴摩勒果、鞞醯得枳果、胡椒、蕁苳等<sup>23</sup>である。

上述の薬名は『根本説一切有部百一羯磨』でも挙げられているが、“zhun mar ram”は *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）にだけある薬名である。「七日 [薬]」とは七日間の薬（この薬は七日間しか持つことが出来ない）で、上述の Zhun mar ram、酥油（'Bru mar ram）、蜜乳（sBrang rtsi'm）、糖沫（Bu ram gyi dbu ba'm）などが含まれる。至愈（盡壽）[薬]とは何時までも（長時間）持つことができる薬で上述の根薬（rTsa ba'i sman nam）、莖薬（sDong bu'i sman nam）、葉薬（Lo ma'i sman nam）、華薬（Me tog gi sman nam）、

---

<sup>19</sup>『根本説一切有部毘奈耶藥事』には「根莖葉花果。復有五種膠藥。五種灰藥。五種鹽藥。五種澁藥。云何根藥。謂香附子。菖蒲。黃薑。生薑。白附子。若更有餘物。是此體例。堪爲藥者。隨意當用。莖藥者。梅檀香藥。葛栢木。天木香。不死藤。小栢。若餘體例。准前應用。葉藥者。三葉。謂酸棗娑奢迦藥此方無。緋婆棟木是也。高奢得枳此方無。及以餘類。准前應用。花藥者。謂娑舍迦花。緋婆花。陀得雞花。龍花。蓮花。更有餘類。應隨所用。果藥者。謂訶黎勒果。菴摩勒果。鞞醯得枳果。胡椒。蕁苳。若有餘類。准前應用。」とある。—『大正新脩大藏經』（卷二四）No. 1448. p. 1b

<sup>20</sup> 同上

<sup>21</sup> 同上

<sup>22</sup> 同上

<sup>23</sup> 同上

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）41  
果藥（Bras bui sman nam）などが含まれる。

## 22. 四墮落法

四墮落法（Skt. Pārājika）とは殺生、偷盜、邪淫、妄語の四つの禁戒を犯した重罪のことである。これを犯した者は教団を追放される。四重罪、四重、四重禁、四波羅夷ともいう。この条項の内容は *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）とほぼ一致するが、『根本説一切有部百一羯磨』と異なる点が多い。例えば、多羅樹の比喻は、『儀範』（*Las brgya rtsa gcig pa* も同様）のこの条項の最初の箇所と四つの禁戒（墮落法）毎に挙げられているが、『根本説一切有部百一羯磨』では同条項のはじめの箇所でのみ挙げられていて、各禁戒（墮落法）の文章には挙げられていない。また、「磨灑<sup>24</sup>」について『根本説一切有部百一羯磨』では詳しい注釈が成されているのに対して、『儀範』と *Las brgya rtsa gcig pa* ではその様な注釈が成されていない。そして、妄語について『儀範』（*Las brgya rtsa gcig pa* も同様）では非常に詳しく説明がなされている。その詳細は以下の通りである。

1) 法を知れりと言へる（言知法）。

ここには苦集滅道（四諦）が挙げられている。

2) 法を見たりと言へる（言見法）。

ここには十一の項目がある。一から八までは諸天、神鬼との関連についてである。即ち：

見（見ると見られる）

①我諸天、神鬼を見たと言へる。

②諸天、神鬼我を見たと言へる。

聞（聞くと聞かれる）

③我諸天、神鬼の聲を聞ひたと言へる。

④諸天、神鬼聞我の聲を聞ひたと言へる。

---

<sup>24</sup> 磨灑（Māṣa）、又は磨沙、摩娑迦（Māṣaka）とも書く。古代インドの通貨の一つで、八十貝齒（Kaparda）を一磨灑とする。

42『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

觀（觀に往くと觀に來る）

⑤我諸天、神鬼を觀に往くと言へる。

⑥諸天、神鬼我を觀に來ると言へる。

共語言談論 共相歡樂 長時共住（共に言を語り談論し、共に歡樂し、長時共に住する）

⑦我諸天、神鬼と共に言を語り談論し、共に歡樂し、長時共に住したと言へる。

⑧諸天、神鬼我と共に言を語り談論し、共に歡樂し、長時共に住したと言へる。

という事を説いている。然も、その神鬼の名は各条項（件の八条）に渡って繰り返されている。そこに名を挙げられた神鬼は以下の通りである。

天 (lHa rnam) (Skt. Deva)

龍 (Klu rnam) (Skt. Nāga)

夜叉 (gNod sbyin rnam) (Skt. Yakṣa)

迦樓羅 (Nam mkha' lding rnam) (Skt. Garuḍa)

乾闥婆 (Dri za rnam) (Skt. Gandharva)

緊那羅 (Mi'm ci rnam) (Skt. Kinnara)

摩睺羅伽 (To'phyen chen po rnam) (Skt. Mahoraga)

餓鬼 (Yi dwags rnam) (Skt. Preta)

毘舍闍 (Sha za rnam) (Skt. Piśāca)

鳩槃荼 (Grul bum rnam) (Skt. Kumbhāṇḍa)

部哆那 (Srul po rnam) (Skt. pūtana)

羯吒部哆那 (Lus srul po rnam) (Skt. Kaṭapūtana)

旋風鬼 (rDul khrod kyi sha za rnam)

九は十想<sup>25</sup>と九想<sup>26</sup>を得たと偽ることであり、その名を一つ一つ挙げて

---

25 十想は、深く想いを凝らす 10 種の修行法である。即ち①無常想②苦想③無我想④不淨想⑤世間不可樂想⑥食不淨想⑦死想⑧斷想⑨離想⑩尽想のことである。

26 九想は九相、白骨觀、九想觀ともいわれる。肉体に執着する心を除くため、ことさら人の死体が膨張し、膿爛腐敗し、鳥獸に食われ、白骨となり、最後に焼かれて土に帰するまでの九段階を思い浮かべる觀想である。即ち、①青想②膿爛想③虫

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）43  
 いるが、言葉使いは通常の所謂十想と九想とは若干異なっている。分かり  
 易くするため、表にすると以下の通りである。

表一（十想）

儀範	Las brgya rtsa gcig pa	通常
無常想	Mi rtag pa'i 'du shes	無常想
無常中苦	Mi rtag pa la sdug bsngal ba'i 'du shes	苦想
苦中無我想	sDug bsngal ba la bdag med pa'i 'du shes	無我想
厭食想	Zas la mi mthun pa'i 'du shes	食不浄想
一切世間不可樂想	'Zig rten thams cad la mngon par mi dag' ba'i 'du shes	世間不可樂想
過失想	Nyes dmigs kyi 'du shes	
斷想	sPong ba'i 'du shes	斷想
離愛想	'Dod chags dang bral ba'i 'du shes	離想
減想	'Gog pa'i 'du shes	尽想
死想	'Chi ba'i 'du shes	死想
不可意想	Mi sdug pa'i 'du shes	不浄想

表二（九想）

儀範	Las brgya rtsa gcig pa	通常
青淤想	rNam par bsngos pa'i 'du shes	青想
膿爛想	rNam par rnags pa'i 'du shes	膿爛想
胘脹想	rNam par bam pa'i 'du shes	脹想
蛆壤想	rNam par 'bus gzhihs pa'i 'du shes	虫想
啄噉想	rNam par zos pa'i 'du shes	壤爛想
異赤想	rNam par dmar ba'i 'du shes	血塗想

想④脹想⑤血塗想⑥壤爛想⑦敗壞想⑧燒想⑨骨想のことである。

44『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

離散想	rNam par 'thor ba'i 'du shes	敗壞想
骸骨想	Rus gong gi 'du shes	骨想
別異空觀想	sTong pa nyid du so sor rtog pa'i 'du shes	燒想

上表から分かるように『儀範』の言葉使いは通常の一十想、九想と若干異なる上、十想が十一想になっている。また、九想の通常の一十想が「別異空觀想」となっている。しかし、*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）とは殆ど一致している。

十は四禪、四無量心、四無色定、四向四果、六神通を成し遂げたと偽ることである。

十一は八解脱を成し遂げたと偽ることである。

### 23. 沙門所應作法

ここでは「沙門四種所應作法」、即ち「他罵るならば應に返して罵るべからず、他瞋れば應に返して瞋るべからず、他打たば應に返して打つべからず、他調せば應に返して調すべからず」という沙門法を沙門になる者に告げる作法を説いている。この条項については三者（『儀範』、*Las brgya rtsa gcig pa*、『根本説一切有部百一羯磨』）でほぼ一致するが、相違点としては『儀範』の「具壽汝聽（具壽汝聽けよ）」「爲諸依如是法。出家受近圓。作苾芻者。（諸の是の如き法に依りて出家し近圓を受け苾芻と作る者の爲）」と『根本説一切有部百一羯磨』の「汝某甲聽（汝某甲聽けよ）」爲諸苾芻受近圓者（諸の苾芻、近圓を受くる者の爲）」等が挙げられる。又、件の両者には否定字「不」と「否」の違いが見られる。

### 24. 標滿心希望勝願

ここは出家希望者に対してその願い通り、既に出家が出来、近圓を受ける条件が整ったことを告げる作法を説明している。この条項はタイトルと「具壽」（『根本説一切有部百一羯磨』には「某甲）」という呼び名以外のすべての文章が『根本説一切有部百一羯磨』と一致しており、*Las brgya rtsa*

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）45  
*gcig pa*（『百一羯磨』）とも大同小異である。

## 25. 明同得學處<sup>27</sup>法

ここは學處（Skt. Śikṣāpada）、尸羅（Skt. Śīla）を同じく得ることと『別解脱經<sup>28</sup>』を同じく説くことを告げる作法である。この条項は *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）とほぼ一致するが、『根本説一切有部百一羯磨』とはいくつかの異なる箇所があり、内容的にも『根本説一切有部百一羯磨』のほうがより簡略化されている。異なる箇所として『別解脱經』と『戒經』をとりあげたことが挙げられる。

## 26. 依世間喩説儀範

ここでは世間の論理に従って師弟二人がお互いに面倒を見るべきであるということを説いている。『根本説一切有部百一羯磨』には「依世間喩説」

---

<sup>27</sup> 同得學處：「同得學處者。若有先受圓具。已經百歲。所應學事。與新受者等無有異。若新受圓具。所應學事。與百歲圓具者事亦不殊。所謂尸羅學處持犯軌儀咸皆相似而得。故名同得學處。」—『根本説一切有部毘奈耶』・『大正新脩大藏經』（卷二三）No. 1442 p. 630a

<sup>28</sup> 『別解脱經』—『儀範』の序文では「…一切有部別解脱經。依此採捨。未得令得。律儀方便羯磨儀範。」（…一切有部別解脱經。これによりて採捨す。未だ得ざるを得らしむ。律儀方便羯磨儀範。）と、「一切有部別解脱經」となっている。

『瑜伽論記』（卷第十八之下）に

「…別解脱經者謂戒也。及廣分別者律本也」（…別解脱經とは戒を謂ふなり。及び廣分別とは律の本なり）。—『大正新脩大藏經』No. 1828. p. 727

『根本薩婆多部律攝』（卷第一）には

「…言別解脱者。由依別解脱經如説修行。於下下等九品諸惑。漸次斷除永不退故。於諸煩惱而得解脱。名別解脱。又見修煩惱其類各多。於別別品而能捨離。名別解脱。」（…別解脱と言ふは、別解脱經に依りて如説に修行するに由り、下下等の九品の諸惑に於いて漸次に斷除し、永く退せざるが故なり。諸の煩惱において解脱を得るを別解脱と名づく。又見修の煩惱は其の類各多し、別別の品に於いて而も能く捨離するを別解脱と名づく。）—『大正新脩大藏經』No. 1458 p. 525

とある。

但し、ここの『別解脱經』はチベット語 *bs Tan 'gyur* の *So sor thar pa* (No. 1031) のことであろう。

46『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）

という文句がないが、内容は殆ど一致する。*Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）では“Tshul dang 'brel ba'i gzugs brnyan la nges par sbyar ba”としており、内容も完全に一致する。

## 27. 住調伏法、成辦所須法、説儀範中未曾説防護法

この三条項は極めて簡略に書かれたものである。

「住調伏法」では出家者が教団の上中下座の者に対して、常に敬う心を持って恭しく勤めることを説いている。故に *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）では“dul bar gnas pa”（温順になること）としている。

「成辦所須法」では五善巧〔所縁〕即ち、①蘊善巧②處善巧③界善巧④縁起善巧④處非處善巧を習得するべきであることを説いている。

「説儀範中未曾説防護法」では、未知なことを半月毎の説経の時、軌範師、親教師及び同学親友らから聞くこと等によって取得すべきであると説いている。

この三条項は三者（『儀範』、*Las brgya rtsa gcig pa*、『根本説一切有部百一羯磨』）で大きな違いはなく、内容がほぼ一致する。

## 28. 説發至信偈

この偈は *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）と完全に一致するが、『根本説一切有部百一羯磨』とは文脈が若干異なる。『儀範』は「發至信偈（信仰心を起こす偈）」としているのに対し、『根本説一切有部百一羯磨』では「頌曰（頌に曰く）」としている。そして、偈（Gāthā）の配置も若干異なる。

## 29. 略説勸修方便法

この条項は非常に短く、近圓を受ける者に対して気を緩めずに励むべきであることを告げている。三者（『儀範』、*Las brgya rtsa gcig pa*、『根本説一切有部百一羯磨』）は内容上殆ど一致する。

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼）47

### 30. 作苾芻儀範、單白羯磨、白二羯磨

この三条項はいずれも『儀範』にだけにある条項である。「作苾芻儀範」は戒を受けた苾芻が親教師、軌範師と衆僧に礼をし、近圓を受けたことに感謝するという事である。「單白羯磨、白二羯磨」では單白と二白羯磨を説明している（当然ながら *Las brgya rtsa gcig pa*（百一羯磨）、『根本説一切有部百一羯磨』にも「單白羯磨、白二羯磨」についての箇所があるが、『儀範』のような独立した条項ではなく、文脈等も全く異なるものである）。

### 31. 房舎儀範

ここは房舎を作り終わった者と未だ作れずにいる者が成すべきである作法を説いている。

### 32. 教求出家法

この三条項は全文を纏めたような条項である。

## 五、纏め

ここまでの『儀範』と *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）、『根本説一切有部百一羯磨』を比較しながらその詳細について論じた。当然のことながら、『儀範』の原本（チベット語であろう）が見つからない限り、その全貌を明らかにすることは不可能であろう。しかし、『儀範』の漢訳を議論することでその詳細を解明することができる。前述したように『儀範』は *Las brgya rtsa gcig pa*（『百一羯磨』）、『根本説一切有部百一羯磨』と一致する箇所もあれば、異なる箇所もある、独立した著作であるのが明らかである。パクパはチベット語大蔵経と漢訳大蔵経を参照しながら双方の不足点を補う形で『儀範』を作成し、より完璧な羯磨の作法を作ろうとしたのである。

では、パクパは『儀範』で何を明確にしたのか。図で表すと以下の通りである。



A. 沙彌(Skt. Śrāmaṇera)戒を授ける

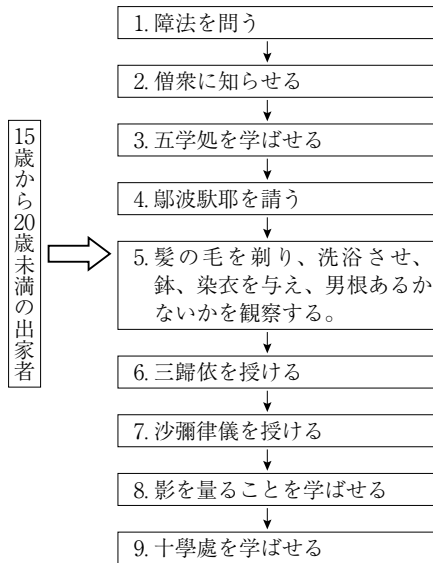


図 1

B. 具足(Skt. Upasampadā)戒を授ける

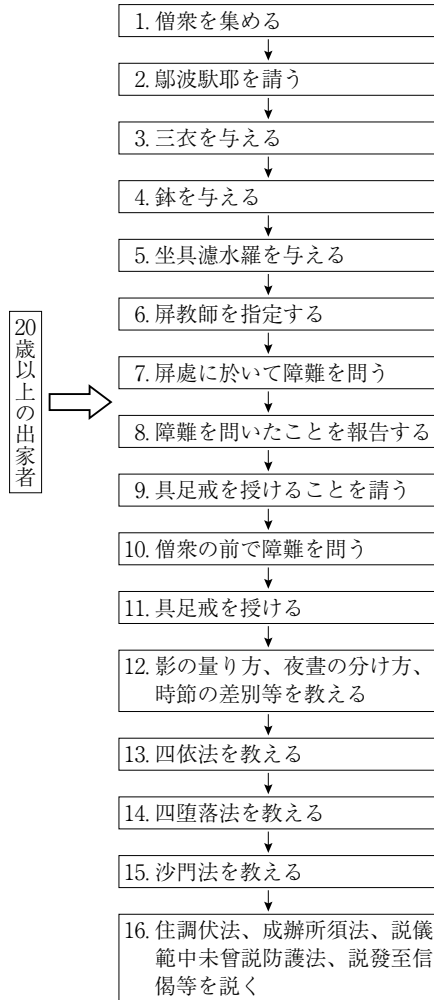


図 2

## Summary

### On the *Gen ben shuo yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan*

Qindamuni

In this paper, I discuss the *Gen ben shuo yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan* 根本說一切有部出家授近圓羯磨儀範, 'Phags pa's manual of ordination procedure and ritual, and compare it to the *Las brgya rtsa gcig pa* and the *Gen ben shuo yi qie you bu bai yi jie mo* 根本說一切有部百一羯磨. Though the *Gen ben shuo yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan* is largely based on the *Las brgya rtsa gcig pa*, it displays sufficient original characteristics, mainly in its structure and arrangement of topics, to regard it as a work in its own right.

Among the differences between the texts, one can cite the following examples. (1) While the *Gen ben shuo yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan* lists thirty-nine topics, the *Las brgya rtsa gcig pa* (Chapter I *Rab tu byung ba'i gzhi'i skabs kyi cho ga dang las*) contains only thirty-six topics. (2) The itemized list enumerating the topics in their abridged form is found only in the Preface of the the *Las brgya rtsa gcig pa*. (3) While the *Las brgya rtsa gcig pa* each abbreviated name is numbered, no numeration is used in the *Gen ben shuo yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan*. This makes the parallel passage in the *Gen ben shuo yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan* shorter.

We can therefore conclude that although 'Phags pa undoubtedly used the material of the *Las brgya rtsa gcig pa* (as well as of the *Gen ben shuo yi qie you bu bai yi jie mo*), his *Gen ben shuo yi qie you bu chu jia shou jin yuan jie mo yi fan* also contains original additions and modifications which he felt necessary for the clarity and precision of the monastic procedures and

『根本説一切有部出家授近圓羯磨儀範（苾芻習學略法附）』について（欽達木尼） 51  
rituals he dealt with.

*Ph.D.,  
Research Student,  
International College  
for Postgraduate Buddhist Studies*